

■しずだい産学連携メールマガジンVol. 18

2009年7月21日発行 【毎月第3火曜日】

⇒静大産学連携広報より、お知らせやイベント情報をお届けします。
<http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>からもご覧いただけます。

★今回の“静大ラボ紹介”は 河岸洋和研究室です。

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

1. 知的財産本部知財コーディネーター公募のお知らせ
2. 「第3回ビジネスマッチング in Hamamatsu 2009」に出展します
3. 「第1回フーズ・サイエンスセミナー」のご案内
4. 「CIC東京新技術説明会」に参加します
5. 「第18回共同研究希望テーマ説明会」を開催します

1. 知的財産本部コーディネーター公募のお知らせ

募集人員 知的財産本部特任教員（知財コーディネーター兼務）若干名
雇用期間 単年度毎に契約更新の長期雇用
勤務地 静岡もしくは浜松キャンパス
応募締切 平成21年7月31日（金）必着（当日の消印可）
採用月日 随時（相談による）
詳細 <http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/>
問合せ 静岡大学学術情報部産学連携支援課長 出崎
TEL 053-478-1414

2. 「第3回ビジネスマッチング in Hamamatsu 2009」に出展します
Go Challenge! ~ “地球に優しく” 未来のために~

日時 2009年7月21~22日（21日10:00~17:00, 22日10:00~16:00）
会場 浜松市総合産業会館（浜松市東区流通元町20-2）
主催 浜松商工会議所 浜松信用金庫
共催 遠州信用金庫 はましん経営塾
主旨 地元中小企業にビジネスマッチングの「出会いの場」を提供し販路
拡大・受注確保などのビジネスチャンスの機会創出を強力にバック
アップします。また、大学・支援機関も参加し連携をいっそう強め、
地元企業および地域の活性化推進を目的として開催します。
今回は特に「環境」をテーマを絞り、当地区の優れたものづくりを
PRします。展示参加数は、約130機関です。
内容 展示商談会、出展企業個別商談会、販路開拓支援相談会、
経営・技術相談会
入場料 無料
詳細 <http://www.hamamatsu-bmf.jp/>
問合せ 浜松商工会議所工業振興課 TEL 053-452-1116

3. 「第1回フーズ・サイエンスセミナー」のご案内

日時 2009年7月23日（木）13:00~16:30
会場 静岡市清水産業・情報プラザ
主催 静岡市、静岡県、焼津市、藤枝市、しずおか産業創造機構
内容 ○技術相談会 静岡大学等の産学連携担当者が対応します

Vol. 18_09.07.21

- 講演 『地域資源を活用した商品開発と売れる商品の条件』
株式会社ものづくり研究所 代表取締役 北條規氏
『正しい食への挑戦・低GI食』 「カラダECO」
アオノミート株式会社 代表取締役 青野盈瓠氏
『単色光による機能性成分増強スプラウトの商品化』
有限会社田島農園 専務取締役 田島智晴氏

会費 講演会：無料、交流会（16：50～18：30）：3000円
詳細/申込

<http://www.ric-shizuoka.or.jp/fsh/report/seminar/h21/h21seminaannai/h21fss1.html>

問合先 しずおか産業創造機構 フーズサイエンスプロジェクト推進チーム
担当 茂木、安田 TEL 054-254-4513

4. 「CIC東京新技術説明会」で発表します

日時 2009年7月24日（金）10：00～16：40
会場 キャンパスイノベーションセンター東京
主催 CIC東京、（独）科学技術振興機構
静岡大学の発表

- 「マルチスティックUWBレーダによるマイクロ波イメージング」
工学部電気電子工学科 教授 桑原義彦（10：40～11：00）
- 「亜臨界水を用いたバイオマス廃棄物の高効率エネルギー変換技術」
大学院創造科学技術研究部 教授 佐古猛（15：00～15：20）

参加費 無料

詳細/申込 <http://jstshingi.jp/cic-tokyo/2009/>

発表の問合先 静岡大学知的財産本部 TEL 053-478-1414

5. 「第18回共同研究希望テーマ説明会」を開催します

静岡大学の14名の研究者が食品・環境・バイオ関連の研究成果について発表し、共同研究の可能性をご提案します。

日時 平成21年7月30日（木）13:00～17:05
場所 静岡市産学交流センターB-nest7階大会議室
主催 静岡大学イノベーション共同研究センター
内容

1. 「ストレスと身体反応」
電子工学研究所 杉浦敏文
2. 「養液栽培で広がる農業ビジネスの可能性」
農学部 切岩祥和
3. 「種特異的な生分解性除草剤の開発」
理学部 天野豊己
4. 「キノコが作物を育てる?!」
創造科学技術大学院 河岸洋和
5. 「リグニン及び環境汚染物質高分解性担子菌の開発」
農学部 平井浩文
6. 「木質系バイオマス資源からの生理活性物質の検索」
農学部 河合真吾
7. 「バルカナイズドファイバーの原料開発と製造方法の検討」
農学部 鈴木恭治
8. 「白色腐朽菌およびその酵素を用いるバイオレメディエーション」
農学部 西田友昭
9. 「早成バイオマス・ケナフ炭化物による室内ホルムアルデヒドの低減」
農学部 渡邊拓

10. 「メタボリックシンドロームを予防・改善する食品成分の探索」
農学部 茶山和敏
11. 「光線力学的療法用光増感剤の開発」
工学部 平川和貴
12. 「新たな創薬ターゲットとしての植物P450の可能性」
農学部 轟泰司
13. 「植物脂質合成系研究の可能性」
理学部 木寄暁子
14. 「注意欠陥多動性障害(ADHD)の新たなモデル実験系確立をめざして」
理学部 竹内浩昭

参加費 無料(事前登録制)

詳細/申込 http://www.cjr.shizuoka.ac.jp/center/eventlog/no71_18program.pdf

問合先 静岡大学イノベーション共同研究センター 静岡オフィス

TEL 054-238-4630

《 静大ラボ紹介 -4- 》

創造科学技術大学院バイオサイエンス専攻 河岸洋和研究室

キノコに魅せられて20数年、キノコの研究一筋という河岸先生の研究室は、まさにキノコの実験室である。キノコは、農業への応用や病気予防・改善など、人類のためになる様々な可能性を秘めており、それを見出すことが研究の面白さのこと。

研究室では、キノコからバイオアッセイを指標に、様々な生理活性物質を精製して純粋な化合物を取り出す。そして、その化合物が有する生理活性作用の産業応用への可能性を検討しながら、その化学構造を決定し、生理活性作用の作用機序を極めるという奥深い研究活動を日々精力的に行っている。研究対象としている物質は高分子(タンパク質)から低分子化合物まで実に幅広く、キノコの生活環[胞子から菌糸、菌糸から子実体(キノコ)、子実体から胞子への変容]を制御する物質の研究も行っている。

現時点では夢のそのまた夢の話ではあるが、いつの日にか河岸先生の研究室でマツタケができることを夢見たい。(記: 粟田正志)

《 みんなのコラム 》

注目すべき新生物種「Top 10 New Species」がアリゾナ州立大学(ASU IISE)より発表された。<<http://species.asu.edu/Top10>>

Top10には、全長56.7 cmもある巨大ナナフシや豆粒サイズのタツノオトシゴ、カフェインフリーのコーヒーの木など、ユニークな生物種が挙げられている。その中の一つにSpray-on New Species(ヘアスプレーに棲む微生物)がある。この新菌種は日本の大学の研究者が発見した。

極限環境(例えば噴火口や深海など)微生物については様々な研究がなされ、遺伝子特性を利用した事業も行われている。今後も新種の生物は多く発見され、そのメカニズム解明が進み、新しい製品へと繋がっていくだろう。自然科学は技術移転の視点で見ても非常に面白い分野である。(記: 大西 由香)

《 編集後記 》

今年の産学官連携推進会議のワークショップで紹介された「モノコック」フェア。これは、静岡県の特許流通アドバイザーと静大知的財産本部が企業と教員の連携を支援することにより実現した技術移転の成果です。この椅子は、産学連携により共同研究、特許出願を経て、

現在は東京国際家具見本市をはじめ多数の賞を受賞し、雑誌掲載や出展、販売と広く注目を集めています。

これからも様々な形で産学連携の成果が、皆様のお役に立つように。そう願いながら日々活動していきたいと思えます。

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -

◆メールマガジンに関するお問合せ・配信先変更・担当者変更・購読中止のご連絡は、sangakukoho5@cj.r.shizuoka.ac.jp までお願いします。(↑送付の際は○欄に@を入れてください。)

◆本メールマガジンの商業用の転載はお断りいたします。

発 | 行 | 者 |

国立大学法人静岡大学イノベーション共同研究センター
編集：原典子
編集責任者：木村雅和
〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1
TEL053-478-1414

* - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * - * -
by Copyright(c)2008-2009 Innovation and Joint Research Center,
Shizuoka University. All rights reserved